

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270202528
法人名	有限会社 ケアアンドサポート
事業所名	グループホーム ゆうしゅん
訪問調査日	平成 19 年 10 月 17 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 14 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社 ケアアンドサポート		
事業所名	グループホーム ゆうしゅん		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市東浜町846-3	(電 話) 0956-32-9900	

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年10月17日	評価確定日	平成19年12月14日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	14.4 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	木 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	170円/1日
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	850 円	

(4) 利用者の概要(平成 19年 9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	むかい医院、むかい歯科、佐世保中央病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>海の見える丘に位置し、近くの住民も気軽に入れる雰囲気のあるホームである。「入居者全員が幸せにお過ごしになられますようにご支援いたします」と理念を掲げ、利用者の支援に取り組んでおり、現在地域密着型サービスの意義も踏まえた新たな理念の検討も行っている。</p> <p>管理者や職員は、理念に沿って、利用者一人ひとりが得意なことや趣味活動を行いつつ、役割を持ってその人らしく生活できるよう、感謝の気持ちを伝えながら、ともに支えあう関係づくりに努めている。また、医療連携体制を整え安心できる生活を支えている。</p> <p>今後も、地域密着型サービスとしての視点を強められ、地域住民や近隣の学校などへ積極的に働きかけ、協力し合う関係づくりに努められ、更なるケアサービスの質の向上に取り組まれることを期待できるホームである。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

項	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	評価結果を全職員に報告し、課題を共有しながら改善に向けて取り組みを検討し、勉強したり、具体的な取り組みを進めるように努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価の意義などを共有しながら、職員がそれぞれに自己評価を行い、管理者が意見の集約を行った。自己評価により自分たちの取り組みの見直しが行えたこと前向きに捉え、今後の取り組みに活かしていこうという意向が感じられる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	今年から2ヶ月に1回の割合で運営推進会議を開催しており、利用者家族、民生委員、市の担当者に参加してもらい、施設運営に関する意見や要望、助言などを得て、職員にも伝え、サービスの質の向上を図っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の面会時に職員から声をかけ、家族からの意見を聞くように努めている。また、家族会への出席率も高く、家族からの意見を出してもらう機会となっており、家族から出された意見については、ミーティングや会議で話し合い、運営に活かしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	現在地域活動の情報を集め、清掃活動など地域の行事に積極的に参加し交流を深めるように取り組んでいるほか、近所の店に買い物に出かけ顔見知りになるなど、地域住民との交流を図っており、グループホームに対する理解と協力を得られるように努力されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念に加えて、地域密着型のサービスの意義を踏まえ新たに理念を見直す作業に取り組むとともに、地域住民にホーム便りを配布するなど、地域の理解を深めるための働きかけを行っている。		地域密着型サービス事業所としての理念を見直しを行っているので、今後の取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を確認し、会議の際には管理者から職員に向けてその意義などについて伝え、再確認するとともに共通理解を図り、理念に基づく実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動の情報を集め、清掃活動など地域の行事に積極的に参加し交流を深めるように取り組んでいるほか、近所の店に買い物に出かけ顔見知りになるなど、地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を全職員に報告し、課題を共有しながら改善策について検討して、具体的な取り組みに努めている。今回の評価においては、職員がそれぞれに自己評価を行い、管理者が意見の集約を行っている。自分たちの実際の取り組みについての見直しができたと評価を前向きに捉え、今後の取り組みの検討に活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年から2ヶ月に1回の割合で運営推進会議を開催しており、利用者家族、民生委員、市の担当者に参加してもらい、様々な意見を出してもらいながらサービス向上につなげている。		

長崎県 グループホームゆうしゅん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営等に関する相談に行ったり、職員の勉強会での講師をお願いしてホームに来てもらったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に訪れる家族が多く、その折に職員から利用者の状態などについて報告を行うとともに、月1回発行しているホーム便りと金銭管理の帳簿を毎月家族へ送付している。金銭出納帳については、面会の際にも確認してもらい、印をもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に職員から声をかけ、家族からの意見を聞くように努めている。また、家族会への出席率も高く、家族からの意見を出してもらう機会となっており、家族から出された意見については、ミーティングや会議で話し合い、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ある程度職員を固定化し、利用者や家族との信頼関係が築けるよう配慮しているが、マンネリ化の対策として一部異動も考えており、新規職員を採用する際も、前もって顔合わせするなど、利用者にとできるだけ負担がかからないように工夫を施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ多くの職員が研修会に参加できるように配慮しており、参加した職員は全体会で研修報告を行っている。	○	研修への参加でよりよいサービスの提供と職員向上心が培われるよう、今後、更に多くの職員が平等に研修を受講できるような取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、他事業所との情報交換や交流を図り、ハーモニカの演奏会や夏祭りを共同で行うなど、積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者や家族に、事前に見学してもらうことにより環境や人に慣れてもらい、いきなり知らない環境での生活を始めることにならないように配慮している。また、利用開始後しばらくは、家族に頻りに訪問してもらうなど、協力を得ながら徐々に慣れてもらうようにしており、利用開始直後の支援について職員や家族が意見を申し合いながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという認識のもと、料理の技や漬物の作り方、農業のことなど、職員は利用者から様々な生活の知恵を教してもらい、利用者と職員が支えあう生活を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日常の会話や表情、態度などから利用者の思いを汲み取るように努めており、また、家族からも情報やアドバイスを受けながら意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回開催されるスタッフ会議で、利用者や家族の意向、職員の意見などをもとに様々な角度から検討し、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、職員の気づきや利用者の状態などから職員全員で検討し、3ヶ月に1回見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整え、日常的に医師や看護師に相談でき、緊急時等の対応もできるように連携を図りながら支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診してもらっており、状況に応じて通院の支援も行っている。また、主治医や協力医療機関からの往診も受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ早い段階で、利用者本人の意向を踏まえながら、家族や主治医とともに十分に話し合いを行い方針を決め、共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、言葉遣いに十分に注意し、利用者の誇りに配慮した穏やかな言葉遣いで接しており、排泄支援の際の会話などには特に配慮している姿勢が窺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れはあるが、利用者本人の希望に合わせてそれぞれのペースで過ごしてもらっており、職員は、それぞれに趣味活動などを行っている利用者へ励ましの言葉をかけつつ、自由に過ごしてもらえるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好きな料理などを聞いて献立に取り入れたり、味見をしてもらったりしているほか、食事の準備や後片付けを一緒に行い、職員も同じテーブルを囲み一緒に同じ食事を摂っている。また、利用者の希望する飲み物を準備したり、夕食は自宅で取ることができるように支援するなどの工夫も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回午前中に行っているが、体調が悪かったり、希望しない場合は、翌日に声をかけ入浴してもらえるようにするなどの配慮があり、そのほかにも希望に合わせて対応できるように努めている。	○	週に2回では衛生の面でも十分でないように思われるため、季節に応じて回数を増やすことや入浴の時間帯について検討されることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶を入れてもらったり、洗濯物をたたんでもらったり、書道の趣味がある利用者に代筆してもらったりなど、それぞれに得意なことや趣味を活かして役割を持ってもらい、職員は感謝の気持ちを伝えている。		お香をたいたり、書道や編物など、他の利用者から教わりながら一緒に楽しみごとを増やしていくような取り組みをされると、更に効果的ではないかと考えます。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺に散歩に出かけたり、遠足の下見に行ったり、車でパールシー等へ外出したりしているほか、近くのお店への買い物など日常的な外出の機会を作るよう心がけている。	○	利用者と一緒に話し合いながら、利用者が希望する場所に出かけられるように計画を立て実現されるよう取り組まれることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアの実践について意義を理解し、支援を行っており、玄関は夜9時までは鍵をかけず、自由に出入りできるようにしているが、非常口は鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に指導を受けながら、避難、消火などの訓練を年2回行うとともに、事業所での自主的な避難訓練を月1回実施し、日頃から避難経路などを確認している。	○	地域に向けて事業所の周知を行うとともに、地域からの協力が得られるよう積極的な取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1週間分のカロリーを計算し、食後に摂取量をチェックしている。また、利用者の嚥下機能などに合わせて食事摂取しやすいような工夫を施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、食事の準備をする音が響き、四季折々の花を飾っており、季節感、生活感のある心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの家具などを持ち込み、好みの花や写真を飾ったり、書物を置いたりして、利用者一人ひとりが安心して過ごせるような居室づくりを行っている。		